

# 現状の認識と対応

と き か ぜ  
時代を読み時風を察知する

Unlimited creation

## 事実認識と対応

『時代』それは現実の**変化の最前線**であろう。

「時とは流れ」あるいは「時代は変化する」ともいうが

真実は・・・変化そのものが時代なのだと考えます。つまり、時々に関わりゆく事実を時代と云い、その連続を歴史と呼んでいるのではないか

## 時代の最前線にいるという認識

「変化の内実は様々」～外的（環境）変化や内的（自己）変化

価値観やニーズ等、変化の**姿**<sup>かたち</sup>として社会現象化する

リーダーは、それら多様化する価値観やニーズを敏感に察知し具体策を打つ  
まさに変化の最前線とは、過去にも未来にもなく今現在にある

## 翻弄されるのか？新たな時代をつくり出すのか？

『変化への応戦』のみの対応は、

まさに事態に翻弄されている様と言わざる負えない

今こそ勇氣ある『変化への挑戦』こそ、

問われている主体的対応ではないでしょうか

勇氣あるとは、

過去に縛られず今に惑わされず、未来を明らかにする事だと考えます

「さあ、いよいよこれから！」との強い意志で「何を、どのように！」

との展望を明確にすること。つまり、主体的に新たな時代を創造するのです

環境の変化＝自己変革

または

自己変革＝環境の創造

人生の成功とは 勝つことではなく 転ぶたびに立ち上がり また進むことだ

ウルグアイ40代大統領 ホセ・ムヒカ氏

## 認識がそのまま対応

認識の違いにより対応は変わり、そのまま結果の違いとなってあらわれます  
いわんや、不安や迷い、戸惑いのままに事態を認識すれば、きっと苦し紛れの  
対応に終始する

対して、目的の確認と使命の自覚をもって事態を認識すれば、きっと大いなる  
展望も見えてくる

認識の違いは、私たち自身の「内面の違い」であり「哲学の違い」でもある

『常に事実の一つでも、認識は一つではない』

不幸を感じたり、不満に思ったり、不遇を嘆くこともある  
方や、自己変革の契機と捉え改革の好機と考え、胸躍る夢を見ることも可能だ

たとえ いかなる逆境、悲運にあおうとも 希望だけは失ってはならぬ

「朝の来ない夜はない」のだから

吉川英治氏

## 変化への応戦

現実的には以下の3点が肝要である

1. 今やるべきことをやる
2. 今やれることをやる
3. 今しかできないことをやる

\*無いものを数えるのではなく、今あるものを必死に数える

チャレンジして失敗することを恐れるよりも 何もしないことを恐れよ

本田宗一郎氏

## 自己変革

まったく予期せぬ事態の変化に驚き、行く末に恐怖すら感じてしまう  
只々なんとかやり過ごすだけでなく、苦し紛れの対処方法だけでなく  
この時こそ「主体的な自己変革」「能動的な組織改革と強化」が、  
事の本質であり根本の問題ではないでしょうか

今後も予期せぬこと（想定外）は起き得る。否、変化こそ真実です

これからどうなるかは分からないが、  
どうするか、どうしたいかは自らの意志で決められる

## 悩まない世界

現実の中にのみ生きると不安になり迷いが生じ未来が霞んで見えなくなってしまうが、このアンリミ哲学に生きる時には、確信と勇気と希望が湧いてくる

不確実な現実の大地に立つ支えとなるものが、このアンリミ哲学なのです

不自由を世の常と思えば、別に苦情も起こらなければ、下らぬ心配も起こるはずがない。  
かくてその志すところの事に従うがよい

渋沢栄一氏